

奨励賞

いっばんしゃだんほうじん

なんこく

一般社団法人エンジェルガーデン南国

～自然の恵みに感謝し、優しさを育むガーデン～



グアバ葉を刈り取り中の利用者さん達



グアバ葉は一枚一枚丁寧に手洗い

経緯

○特別支援学校の教諭を32年勤めた代表が、自分が送り出した子供たちが、卒業した後に社会や会社の中で生きづらさを感じたり、引きこもったりする現状を目の当たりにし、もっとできることはないだろうかと考え、早期退職し就労支援事業所を開所。

取組内容

- 有機JAS認証自家農園において農福連携で栽培したグアバなどを自社で加工、卸売や販売などに取り組む。
- 平成23年にグアバ栽培開始。地元大学などで葉のエキスの機能性について研究発表。圃場(平成25年)と加工場(平成29年)で有機JAS認証を取得。6次産業化に係る総合化事業計画の認定を受ける(平成30年)。

活動の効果

- 令和元年より地元大学からインターンシップを受入。大学を通じJICAと連携して開発途上国向けの研修に協力。
- 地元小学校の農園見学、地元高校生徒会と協力しラオス学校建設活動への寄付金付商品開発。地元高校の授業でグアバ栽培と農福連携を学ぶ講座を実施。
- 女性就農者を増やすため女性用更衣室やトイレを整備。県と連携し県外の移住希望者の農園見学を実施し、令和4年には2名を社員として採用。

応募団体からのアピール・メッセージ

農福連携で自然栽培したグアバ果樹は、葉や果実、果皮種や枝まで余すことなく活用し、様々な賞を受賞しています。また、高知県内の様々な福祉事業所や障がい者雇用をしている農園との連携も試みています。

住所・電話番号・SNS等

南国市亀岩1008 Tel:088-802-8801

e-mail: info@nishigawa-nouen.com

しまんと
4 高知県四万十市

農業

農村文化体験

地産地消

奨励賞

かぶしきがいしゃおおみやさんぎょう

株式会社大宮産業

～みんなでつくった大宮産業～



月1回の送迎活動の様子



大学生田植え体験学習受入れの様子

経緯

- 生活の拠点であったJAの店舗・燃料施設の廃止が決定。高齢者が多い地域であり、集落機能の維持が大きな課題となった。
- 地域住民自ら、事業継承委員会を立ち上げ、協議を重ねた結果、地域全体の80%にあたる108世帯が株主となり、平成18年5月に（株）大宮産業を設立し事業を開始した。

取組内容

- 地域で唯一の生活必需品を販売する店舗及び給油所の継続運営で住民の生活を守り、地域の活性化に取り組んでいる。
- 住民同士が支え合う仕組みづくりとして、灯油や生活用品等の配達に併せて独居高齢者の見守りを実施。
- 大宮地域で古くから栽培されていた大宮米の復活を通して、地域資源の見直しと地産外商に取り組んでいる。

活動の効果

- 移動手段がなく買い物が困難な高齢者には、自宅から店舗まで無料送迎を行い、地域住民の暮らしをサポートしている。
- 平成21年から県内大学生等の受入れを行い、田植え体験や地域調査等、共に地域課題に向き合いながら若者世代との交流を続けている。
- 減農薬栽培で生産した大宮米を、農家から買入れ、学校給食用に販売することで地元農家の所得向上に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

生活拠点として、地域イベントを計画的に開催し、地域の賑わいづくりや繋がりづくりに取り組めます。また、住民同士で支えあって安心して暮らせる仕組みづくりをこれからも目指していきたいと考えます。

住所・電話番号・SNS等

四万十市西土佐大宮1578 Tel:0880-53-2100



いのうえ

かぶしがいいしや

井上ワイナリー株式会社

～「高知でしかつukれないワイン」で高知の新しい食文化を創りたい～



井上ワイナリーのいち醸造所 & SHOP



地域の方々と共に収穫作業



地元高知産ブドウを使用したワイン

経緯

- 明治17年創業の井上石灰工業株が母体。
- 温暖で台風が多くブドウ栽培には向かないと言われる高知で、新しい産業と農業を立ち上げるため、平成24年に初めて南国市稲生でブドウ栽培を開始。
- 地域ごとの地ワインを造ろうと令和3年に「のいち醸造所」を建設し醸造を開始。

取組内容

- 高知の気候・風土に適したブドウ品種を選定し、現在は高知県内5市町の圃場でブドウ栽培を行っている。
- 高知県内各地の生産者と一緒に栽培し、醸造したワインで高知の新しい食文化を創る。
- 耕作放棄地を開墾したり、高知ならではのブドウ栽培とその最適地を模索中。
- 多くの高知の食材や料理とのマリアージュを楽しめるワインは消費者の皆様からも好評いただいている。

活動の効果

- 集落活動センターを拠点として老人クラブの方々や、地元の高校生に収穫・ラベル作りのお手伝いをいただくなど、持続可能な地域の活性化に寄与。
- 地の食材は地の飲み物と合うことは間違いなく、高知ならではの個性、味を追求したワインは消費者の皆様からも好評で、「日本ワインコンクール2023」にて銅賞を獲得し、味について評価された。

応募団体からのアピール・メッセージ

新たな地域でのブドウ栽培や、行政・企業・学校を含めた地域の方々を巻き込み、新しい生産方法・商品化の方向性を考えるとともに、「山北みかんワイン」のようなブドウ以外の果汁を使い高知の新たな特産品の商品開発を行っていきます。

住所・電話番号・SNS等

香南市野市町大谷1424-31 TEL:0887-50-6694 e-mail:tosa@inoue-winery.co.jp

株式会社フクチャンFARM

～移住希望者のニーズに沿った地域の受け入れ体制づくり～



2023ワーホリメンバー、内1名移住



元、空き家のワーホリ参加者シェアハウス

経緯

- 人口減少、高齢化、若者離れ等、町内の事業者においても「慢性的な人手不足」に陥っている。
- 後世に残さなければいけないものがあると分かっているが、次の行動に移せないのが現実である。
- 新しく迎え入れるもの(こと)の受け入れ体制を作ろうとしたことが、活動のきっかけである。

取組内容

- 平成30年度からワーキングホリデーの受入れを行い、収穫時の人手不足を解消。参加者を移住に繋げている。
- ワーキングホリデー参加者に空き家を改修して作ったシェアハウスを利用してもらい、補助金を活用する事で、実質参加者の負担はない。
- 移住希望者には当社の従業員がサポートし、就職先は「東洋町特定地域づくり事業バツゲン協同組合」に繋げている。

活動の効果

- 令和5年度に、家具・家電・レンタカー付きの「移住者お試し住宅」が完成し、希望者の受入れを開始する。(1棟→4棟に)
- 移住者に職探しのサポートとして「バツゲン協同組合」を紹介。同協会の職員に採用されることで、町内の事業者の人手不足問題が解消されている。
- 地域内の空き家問題や子供、若者が増えることで地域の活性化に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

令和5年度中に「移住者お試し住宅」が完成し、希望者の受入れを開始します。今まで1棟だったのが4棟に増え、移住希望者へのサポートも強化していく計画です。今後の東洋町に活気が戻るのか？否か？ご期待ください。

住所・電話番号・SNS等

安芸郡東洋町大字河内362番地1 Tel:0887-29-3277

7 高知県の町

農業

移住・定住

高齢者の活躍

奨励賞

あか やなぎの つく かい 明るい柳野を創る会

～経済活動で地域を元気に！新しい取り組みにチャレンジ！～



ふれあいの里柳野の直販・地元農産物



集落活動センター柳野の水車(そば加工等)



イタドリ皮剥ぎ

経緯

○平成7年、柳野地区の実態調査を実施、その結果、営農の継続や地域でのつながりの必要性、老後への不安など地域の人々が抱える課題が明らかになった。これを受け、地域で集まる場や機会を増やし、高齢者にもできる農業の導入等のため、平成8年2月に柳野地区住民で組織する「明るい柳野を創る会」を結成した。

取組内容

○ふれあいの里柳野(集落活動センター柳野)では、直販所と食堂、地元農産物や加工品の販売を行っている。
○地元産のそばを水車で挽いたそば粉の販売や、そばの加工品(まんじゅう、おやき等)製造販売、そばがきの提供を行っている。
○太陽光発電の売電
活動資金の安定的な確保や支え合い活動の財源とすることを目的に、太陽光発電施設(太陽光パネル98枚)を整備した。

活動の効果

○集落活動センターによるイベント開催により、住民の集いの機会も増え、地域のつながりがより深まっている。
○空き家を活用したI・Uターン移住者の呼び込みにつながり、高齢化率が下がっている。
○太陽光発電の売電収入から、年間24回の配食サービス、買い物券、買い物の無料送迎への支援に充てている。

応募団体からのアピール・メッセージ

集落活動センター柳野の加工場の改修が完了し、これまで以上にイタドリ等の地域農産物を使った加工品を製造・販売をしていきますので是非お越しく下さい。

住所・電話番号・SNS等

吾川郡いの町小川柳野大黒田2482 Tel:088-868-2148 <https://yanagino.studio.site>

「ふれあいの里柳野HP」

しゅうらくかつどう

すいしんいいんかい

集落活動センターおちめん推進委員会

～「できる事から始める」を合い言葉に！～



梶原町内の河川へアメゴの稚魚を放流



特産品づくり 親子ピザづくり体験

経緯

- 集落では町指定無形民族文化財の廿日念仏踊りが420年に渡り踊り継がれているものの、今後、高齢化・人口減少が進めば、伝統芸能の断絶・集落消滅が現実味を帯びてきた。
- 当地区に長く住み続けるために、「できる事から始める」を合い言葉に、集落機能の維持と自立した集落運営を目指して活動を始めた。

取組内容

- 交流の里づくり部会、特産品づくり部会、産地づくり部会（集落営農組合）、アメゴ養殖部会、地域継承部会、及び新聞配達業務の5部会＋1業務の活動を推進し、住民の負担軽減を図り、住みやすい集落づくりに取り組んでいる。
- アメゴ養殖事業は、ICT技術を活用したスマート養殖により、従業員の負担軽減を図り、かつ、データ蓄積により、効率的で安定的な養殖事業を目指している。

活動の効果

- 菊芋のチップスなどを新たに開発・販売し、地域の食材を有効活用することで地域経済に貢献。令和4年度の売上げは前年に比べて10%以上の増収となった。
- 廃校小学校を活用した宿泊業務では、学生の宿泊料金を一般の半額に設定し、BBQ用の炭焼き体験や五右衛門風呂焚き体験など、多くの人に訪ねてみたいと思ってもらえる工夫をした結果、集客力が向上し、冬季を除いて、学生の合宿、企業研修、観光等の利用者が大幅に増え令和4年度は1,900人を超えた。

応募団体からのアピール・メッセージ

私達の活動の目標は、いつまでも住み続けることができる集落づくりである。少子高齢化など地域の課題は多くあるが、「できる事から始める」を合い言葉に集落の存亡を賭けて活動している。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡梶原町田野々1285番地 Tel:0889-68-0888

越知面遊友館のホームページ

ochimen-yuyukan@mm.pikara.ne.jp

えぬぴーおーほうじんひだか

かい

NPO法人日高わのわ会

～「できる人が できることを できる時間に」～



規格外のトマトから生まれた加工品と仕上げ作業

移住者と記念撮影、共に頑張っています

経緯

○トマト農家の手伝いに障害者とペアで作業に行った。その際、規格外品が大量に捨てられており、廃棄にかかる費用がかさんでいる現状から、そのトマトを使ってパスタを提供したところ好評だった。パスタを食べたお客様からソースを求める声に応じて、平成18年から加工品の開発を始めたことがきっかけ。

取組内容

- 行政の縦割りを横につなぐパイプ役として 大小30近くの事業を展開
- 農家の困り事解決
- お母ちゃん達の活躍の場の提供
- 障害者の就労訓練
- パスタソース等加工品の製造・販売
- 公共施設の活用
村は、使われなくなった公共施設(旧給食センター)を加工場として活用できるように整備した。

活動の効果

- 平成18年から加工品を開発し、農家からの買取り量が増え外販にも力を入れ、商品のブラッシュアップや販路拡大に成功、農家の収入アップに貢献。
- 「オムライス街道」での共通素材として、商品開発したトマトピューレを活用したオムライスを提供し続けている。
- 雇用の創出では、加工部人員3人の雇用や障害者の工賃アップにつながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

外からの人を地域に受入れ、母親のように新しいチャレンジを支えていきます。日本のロールモデルになるべく日本を元気にしていきます。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡日高村沖名3-2 Tel:0889-24-4004

「日高わのわ会HP」

<https://wanowa-hidaka.com/>



のうそんこうりゅうしせつ「もりのすばこ」うんえいいんかい
農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

～“夢のまた夢のはなし”がもたらした地域と暮らし”～



集落コンビニ



居酒屋

経緯

- 時代の変化や林業の衰退、子供の減少により学校は廃校、文化の灯が消え寂しさと不安が募る。「このままでは集落が消滅してしまう！このままで終わりたくない」と、高知県の集落再生パイロット事業を住民へ提案。
- 全員が、自分たちの生活と暮らしを守る集落の存続を希望し廃校舎を活用した取組を開始。

取組内容

- 住民の声をきっかけに、平成15年に廃校となった小・中学校の校舎を活用し、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた「森の巣箱」を設立。
- 設立当初は、安定経営のため世帯ごとに当施設での毎月の購入金額の目安を定めた「購買協定」を締結。現在は、宿泊施設の利用料収入等により購買協定や補助金に頼らない運営を実施。施設職員や住民が役割分担をしながら運営している。

活動の効果

- 廃校舎を活用した地域づくりが注目され、平成19年度に全国過疎自立活性化優良事例として総務大臣表彰を受賞。その後、視察や宿泊客が増加し、県内外からの来客者と住民との交流の場も多くなっている。
- イベントの開催や修学旅行生の受入れも実施。
- 閉鎖的だと思っていた集落が地区外との交流で社会の変化に順応する地域に変わったと感じる。

応募団体からのアピール・メッセージ

高齢化等による集落の存続が危ぶまれている地域が連携しまちづくり活動に取り組む「津野町まちづくりネットワークfuu-hot」に参加し、ともに地域の未来を創造していきたい。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡津野町貝の川床鍋392-2 Tel:0889-40-1703

ふなとかっせいかいいんかい「しまんとがわけんりゅうてん」
船戸活性化委員会「四万十川源流点」

～「船戸地区のみんなあと、ここの自然、四万十川源流点がともに輝き、賑わい続ける集落を目指す」～



田舎こんにゃく作り体験の様子

左からおつまみ豆腐、田舎豆腐、おからパウダー 宿泊施設「遊山四万十 せいらんの里」

経緯

- 平成22年の小学校廃校を機に地域活性化の取組を開始。平成26年に、地域住民からなる船戸活性化委員会「四万十川源流点」を設立。
- 地域の観光資源である四万十川源流点を活かしたイベント等で地域内外との交流を重ねながら、平成30年4月に集落活動センターを立ち上げ、特産品作り、宿泊施設経営、生活支援、景観保全等の活動を開始。

取組内容

- 春は文化的景観地区の茶畑を生かした「茶畑ウォーキング」、秋は四万十川源流域の紅葉を楽しめる「四万十川源流点ウォーキング」を実施。
- お豆腐屋さんの味を復活させたい思いから3種類を商品化し道の駅などで販売（写真左）。
- 地元食材にこだわったランチビュッフェが人気の宿泊施設「遊山四万十せいらんの里」を運営。

活動の効果

- 地域で代々受け継がれてきた田舎こんにゃく作りや田舎豆腐作りを体験できるプログラムを造成。体験プログラムの参加者は100人を超えるなど、交流人口の増加につながっている。
- 集落活動センターふなとを開所したことにより、これまで実施してきた交流活動に加えて地域の困りごとの解決や景観の維持活動に取り組むなど活動の幅を広げている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も、「四万十川源流点」を活かした体験・交流イベントにより交流人口・関係人口づくりを継続し、地域の魅力を発信し続けていきたい。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡津野町船戸1309-1 Tel:0889-43-9771

奨励賞

かぶしきがいしゃ

株式会社とおわ

～四万十食文化伝承！伝えていこうとおわのわ～



おかみさん市と道の駅若手スタッフ



旬の食材を使った郷土料理が大皿に豪快に並ぶ

経緯

- 四万十町十和地域の深刻な地域課題となっている「高齢化」「産業衰退」「地域コミュニティの衰退」等に立ち向かうべく、十和地域の住民が株主となり令和2年7月に「株式会社とおわ」を設立。
- 四万十の食文化を次世代に繋げていくために、地域の若者を積極的に雇用。（正社員7名の平均年齢は30代前半）

取組内容

- （株）十和おかみさん市と連携し、郷土料理を10～15種類楽しめるバイキングを開始。
- バイキングの発展形として、高知市や東京都での出張バイキングや、人気メニューの「原木シイタケのたたき」のタレの商品化、テイクアウトできる「バイキング弁当」を開発。
- 食文化や調理法を組織として継承するため、郷土料理レシピの書きおこしを実施。コロナ対策として小鉢スタイルを導入。これらの活動を道の駅を軸にして展開。

活動の効果

- 郷土料理バイキングは、令和2年度にコロナ禍で中止となったが、令和3年度から四万十流域バイキングとしてリニューアルし、令和4年度は3,000人を超える来客があった。
- バイキングを継続することで、地域の雇用の創出や地域で収穫した野菜を食材として買い取ることによる一次産業の活性化、四万十の郷土料理レシピの書きおこしを進めることにより食文化の継承も期待される。

応募団体からのアピール・メッセージ

「まああるくつながる四万十で」の会社コンセプトのもと、高齢化により継承が危ぶまれるおかみさん市の取組を組織として継承し、若い地域住民とともに新しい考え方を取り入れた持続可能な食文化を目指していきます。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡四万十町十和川口62-9 Tel:0880-28-5421

Instagram: toowashimanto

Facebook: toowashimanto

Twitter: toowashimanto



おおつきちようびんちようたんせいさんくみあい
大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

～資源循環利用による持続的産業を目指して～



団体の構成・役割分担



小学校での「製炭学習」



植樹祭

経緯

- 戦後の燃料革命により木炭の利用は激減し、当町の炭焼き文化も淘汰された。
- 平成20年頃、豊富に分布するウバメガシ資源の有効利用に着目し、最も収益性の高い産業として、備長炭製炭業を位置づけ、地元の若者等と持続可能な産業を目指す挑戦を開始した。

取組内容

- 貴重な資源であるウバメガシを将来に残すべく、循環利用可能な「山づくり」、どんぐりを拾って育てる「苗木づくり」、育てた苗木を植栽する「植樹祭」の開催等、「人と自然の共生社会づくり」に取り組んでいる。
- 国、県及び町職員と連携し、地元小中高生の森林環境教育を継続的に開催。
- 持続的産業を目指し、300年以上の歴史を有する紀州備長炭生産者と交流を開始。

活動の効果

- 現在、地元の若者と若手移住者を中心に8名の製炭者が従事し、組合事務局で雇用している1名を含めた9名が備長炭産業で生計を立てている。
- ウバメガシ原木の伐採を担う森林組合や自伐林家の所得向上にも大きく貢献。
- 資源量を考慮した備長炭生産を行いながらも、平均約5,700万円(平成30年度～令和4年度)の売上げを維持。
- 海外への輸出も毎年1トン行っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

私たちの活動が将来、様々な分野に波及していくよう更に取り組みを加速させたいと考えています。

住所・電話番号・SNS等

幡多郡大月町弘見4163 Tel:0880-73-1633